

機能

の三宅智先生も「需要は、日に日に高まっていますね」とコメント。両先生共に、嬉しい驚きと同時に、地域の期待の重さを実感しています。

がん治療の拠点病院を目指して行きたい！

今後は、「がん治療に総合的に取り組むには、在宅ケアへの対応は切り離せません。在宅ケアにおけるソフト面の提供も含めて、地域との連携を深めて行きたいですね」と化学療法科の三宅先生。

また、放射線治療科の吉田先生も「まだ 100%とは言えませんが、ここには、がん治療に関してほぼ完璧な条件が揃っています。院内のシステムをもっと充実させると共に、これから

は周辺病院とのネットワークをさらに深め、がん治療の拠点病院を目指して行きたいです」と、お二人とも意気込み十分。各科スタッフも、思いは同じです。

より広くより力強く、さらなる発展を目指す友愛記念病院「癌治療センター」機能の今後に、みなさまどうぞご期待ください。



ナンバーワンを探せ！ 世界一音の静かな MRI (磁器共鳴画像診断装置)

MRI (磁器共鳴画像診断装置) とは、磁場と電波とコンピュータで体中の様子を見る装置です。細胞中の原子が磁気に反応する性質を利用して、病気の早期発見が可能。骨などの影響を受けずに画像が得られる、放射線や造影剤を使わない等の利点があり、最近では全身のさまざまな部位の診断に用いられています。

ところが、一般的な MRI には、作動中の音が非常に大きく患者さんが苦痛に感じるという欠点があります。加えて、閉所恐怖症の方は、検査台が装置の中を移動する際の閉塞感に耐えられないというケースもありました。

こうした従来の問題を解決するために、当院では、世界一音が静かな MRI 装置 (2006 年 9 月現在) を導入しています。この装置は、磁気の出力は従来のままに、患者さ

んの体感音を半分以下に軽減。装置の奥行きも短くなり、閉塞感も大幅に緩和されています。そのぶん、患者さんにもリラックスして検査を受けていただけるようになり、これまで MRI の音や閉塞感に耐えられなかった方にも検査が可能になりました。さらに、以前より短い検査時間で、より鮮明な画像が得られます。

ただし、どんなに世界一の機器があっても、検査を行なうのはやはり「人」。「機械に負けないように、私たちもレベルアップしなくては」と、スタッフも世界一を目指して日々

